

再評価結果（平成30年度事業継続箇所）

担当課： 道路局高速道路課

担当課長名： 伊勢田 敏

事業名	中部横断自動車道 しんしみず とみざわ 新清水JCT～富沢		事業区分	高速自動車国道	事業主体	中日本高速道路(株)
起終点	自) 静岡県静岡市清水区吉原 しずおか しみず よしわら 至) 山梨県南巨摩郡南部町富士 みなみこま なんぶ ふくし			延長	21km	
事業概要						
中部横断自動車道は静岡・山梨・長野3県を最短ルートで結ぶとともに、東名・中央・上信越自動車道とネットワークを形成することにより、沿線地域の産業・経済・文化・観光等の発展及び振興に資する路線である。						
H10年度事業化		H8年度都市計画決定		H19年度用地着手		H17年度工事着手
全体事業費		1,698億円	事業進捗率		約46%	供用済延長 0km
計画交通量(※1)		7,300台/日				
費用対効果 分析結果 (※1)	B/C	総費用		総便益		基準年 平成26年
	(事業全体) 1.2 (残事業) 1.8	976/1,519億円 事業費：883/1,425億円 維持管理費：93/93億円		1,755/1,755億円 走行時間短縮便益：1,482/1,482億円 走行費用減少便益：216/216億円 交通事故減少便益：57/57億円		
感度分析の結果(※1) 残事業について感度分析を実施						
交通量変動	B/C=2.0 (交通量 +10%)		B/C=1.6 (交通量 -10%)			
事業費変動	B/C=1.6 (事業費 +10%)		B/C=2.0 (事業費 -10%)			
事業期間変動	B/C=1.9 (事業期間 -1年)		B/C=1.7 (事業期間 +1年)			
事業の効果等						
<ul style="list-style-type: none"> <li>円滑なモビリティの確保（並行区間等に、当該路線の整備により利便性の向上が期待できるバス路線が存在する又は新たなバス路線が期待できる）</li> <li>物流効率化の支援（特定重要港湾もしくは国際コンテナ航路の発着港湾へのアクセス向上が見込まれる）</li> <li>安全で安心できるくらしの確保（三次医療施設へのアクセス向上が見込まれる）</li> </ul>						
他10項目に該当						
関係する地方公共団体等の意見						
<p>【山梨県】</p> <p>中部横断自動車道の増穂IC～六郷IC間が本年3月に開通し、残る新清水JCT～富沢IC間は、高規格幹線道路網計画のミッシングリンクとなっており、当該区間の早期整備は本県の切なる願いである。</p> <p>当該区間の整備により、太平洋の臨海地域と本県との連携が強化され、清水港等の活用による海外との物流の促進や、広域的観光の振興による本県経済の発展が促される。</p> <p>また、先の東日本大震災では、高速道路が救助や緊急輸送路の基軸として、多大な効果を発揮することが改めて認識されたところであり、東海・東南海地震や富士山噴火などによる重大な災害の発生が危惧されている昨今において、中部横断自動車道は、広域防災体制を強化するとともに、緊急輸送路としての役割を担うなど、防災、住民の安全安心に不可欠な「命の道」となる。</p> <p>本県の施策には、当該事業の進捗にあわせて進めている項目も多いことから、計画どおり本事業を継続するとともに、新清水JCT～富沢間の平成30年度完成を切にお願いしたい。</p>						
<p>【静岡県】</p> <p>中部横断自動車道は、東名高速道路、新東名高速道路と中央自動車道を結び、更には上信越自動車道と一体となって、太平洋から日本海に至る広域的な道路ネットワークを形成する高規格幹線道路であり、更には、清水港、富士山静岡空港などと陸・海・空の交通ネットワークを形成し、沿線地域を国内各地のみならず海外とも繋ぐ、産業、経済、文化、観光などの振興と活性化に貢献する重要な道路である。</p> <p>また、予想される南海トラフ巨大地震等の災害発生時には、代替路及び緊急輸送路としての役割を果たし、広域的な救援活動を支える「命の道」でもある。</p> <p>中部横断自動車道の起点に位置する清水港では、クルーズ船の寄港が年々増加する中、国際クルーズ拠点の形成に向けた取組が進められている。加えて、清水一大分間の貨物フェリー「RO-RO船」が平成28年10月に運航を開始し、平成30年3月には増便が予定されるなど、中部横断自動車道の全線開通による観光や物流の圏域拡大を見据えた投資が行われている。</p> <p>このように、地域の方々や経済界の中部横断自動車道への期待は高く、民間投資も進んでいることから、平成30年度開通予定の新清水JCTから富沢間について、一日も早い開通をお願いしたい。</p>						
<p>【静岡市】</p> <p>中部横断自動車道は、静岡県から山梨県及び長野県までを広域で結ぶ、新たな南北軸を形成する高規格幹線道路であり、南海トラフ巨大地震が危惧される本地域においては、災害復旧・被災者支援の基軸、また、救急医療サービスの広域化などといった「命の道」として、強く期待されております。</p> <p>また、物流や経済活動の活性化、地域交流や観光産業の活性化といった交流人口の拡大等に大きな影響を与え得るものであり、官民一体となり、開通に合わせた取り組みを進めております。</p> <p>平成30年度の新清水JCT～富沢IC間の完成を切にお願い申し上げます。</p>						

事業評価監視委員会の意見

対応方針（原案）のとおり了承。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等（※1）

- ・甲府市から静岡市間の所要時間は国道52号を利用した場合、約140分を要している。
- ・隣接する富沢～六郷間は、新直轄として整備中。

事業の進捗状況、残事業の内容等

用地取得が概成し、橋梁・トンネル等工事を全面展開中。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

平成30年度の開通を目指し鋭意工事を推進。

施設の構造や工法の変更等（※1）

新技術・新工法や現地の状況変化も確認しながら積極的にコスト縮減を図っていく。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの

※1 前回評価結果を用いて記載したもの